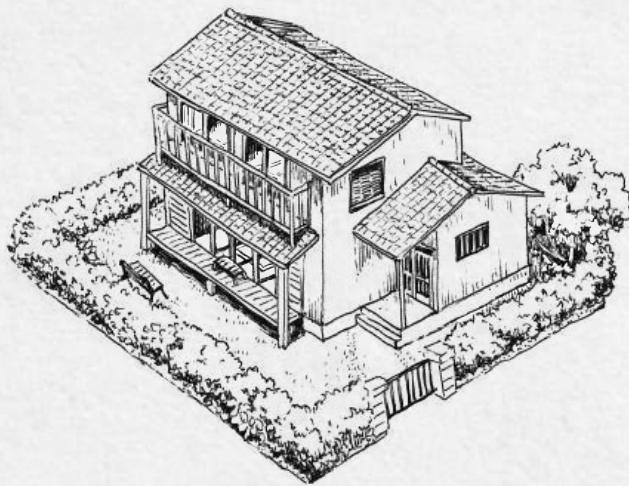


第22回AAF戯曲賞受賞作

ワークインプログレス試演会



作：村社祐太郎

演出：澄井葵、羽鳥嘉郎

2025年

3月15日(土) 16時～

開場は開演 30分前

★終演後に劇作家、演出家、出演者による  
トークあり(19時頃終了予定)

愛知県芸術劇場 大リハーサル室

入場無料(要予約)

「陸の孤島」と呼ばれる住宅地の空気、そこに住まう人々の孤独。どこの家にもありそうな家族の会話と静かな時間。これらが描かれた会話劇『とりで』を同戯曲賞公演としては初めて、2人の演出家が異なる視点でそれぞれの演出作品を創作し、連続上演いたします。2025年12月の本公演に先駆けて、ワークインプログレスの試演会を実施します。

作：村社祐太郎(むらこそ・ゆうたろう)

新聞家主宰。演劇作家。1991年東京生まれ。訥弁の語りを中心に据え、書くことや憶え繰り返すことを疎外せずに実現する上演に取り組んでいる。2018年利賀演劇人コンクールにて奨励賞を受賞。2019-20年度公益財団法人セゾン文化財団セゾンフェローI。2020-22年度 THEATRE E9 KYOTO アソシエイトアーティスト。

演出：澄井葵(すみい・あおい)

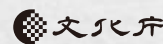
岐阜県出身。演出家。自身のユニット「5(てんご)」を東京で旗揚げ。2011年から地元に戻り、名古屋を中心とした活動を始める。人の持つ感覚や普通さに働きかけ、観客俳優問わず感覚を足したり引いたりして、よく台無しにする。最近「5(てんご)」公演「黒門児童遊園(作：佐々木治己)」、「ジとジ(作：向坂達矢「なにものにも」より)」を演出。

演出：羽鳥嘉郎(はどり・よしろう)

1989年ブリュッセル生まれ。演出家、「けのび」代表、サハ。ワークショップ「自治」シリーズや、石をおかずにご飯を食べる「おかず石」などを各地で展開。編著に『集まると使える—80年代運動の中の演劇と演劇の中の運動』(ころから、2018年)がある。女子美術大学非常勤講師、立教大学兼任講師。

プロデューサー：仲村悠希 / チラシデザイン：とりやまゆり

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



予約申込

受付開始日：2025年1月17日(金) 10時～  
愛知県芸術劇場 オンラインチケットサービス  
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/>  
※未就学児のご入場についてはお問い合わせください。



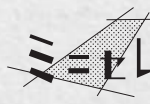
会場・  
アクセス

愛知県芸術劇場 大リハーサル室(愛知芸術文化センター地下2階)  
地下鉄 | 東山線または名城線「栄」駅下車、徒歩5分  
名古屋鉄道 | 瀬戸線「栄町」駅下車、徒歩5分

主催・製作  
企画制作  
お問合せ

愛知県芸術劇場(愛知県文化振興事業団)  
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2(愛知芸術文化センター内)  
TEL: 052-211-7552(10:00～18:00) Email: contact@aaf.or.jp

★出演者等、公演情報詳細は1月初旬以降 WEBサイトにてご確認ください。



Aichi Prefectural Art Theater  
愛知県芸術劇場